

テーマ 1 木材の特性や意匠性を最大限活用できるようにするための規制の合理化

1-1 「燃えしろ設計」が適用される建築物の範囲拡大について

【指摘された課題】

- ・ 木材を利用する際、石膏ボードによる防火被覆や鋼材を組み合わせることで、「燃えどまり」を求める規制は、諸外国に例を見ない日本独自の規制。
- ・ 諸外国では、必要に応じ「燃えしろ設計」を用いることで、木材の意匠性を存分に活かした建築物が建てられ、そのための技術開発が進展。日本では、独自規制の結果、技術開発が遅れるばかりでなく、海外の技術を活用した木造建築が困難。

1-2 内装材料の制限の合理化について

【指摘された課題】

- ・ 特殊建築物のような大規模な建築物の内装には、広く難燃剤等の使用が求められるが、欧米の例に倣い、合理性を吟味すべき。

テーマ 2 都市部等での木造需要増に向けた木造中規模ビルの普及促進

2-1 都市部等での木造需要増の政策目標：木造中規模ビルの普及促進

【指摘された課題】

- ・ 供給増の見込まれる国産木材等を十分に活用する上で、地産地消に加え、地産都消が不可欠。都市部建築需要に応える木造建築物として、例えば、中層ビル群をイメージし、その量産が可能となるような生産システムを整備すべきではないか。
- ・ 例えば、部材の規格化、標準的な設計方法、建築確認申請に使用できる技術情報の体系整備など。

2-2 都市部における中層木造ビル建築を促進するための規制の合理化

【指摘された課題】

- ・ 都市部における中層木造ビルという、新しい需要を生み出す観点から、前例にとらわれず、耐火性能に関する技術基準を合理化すべきではないか。